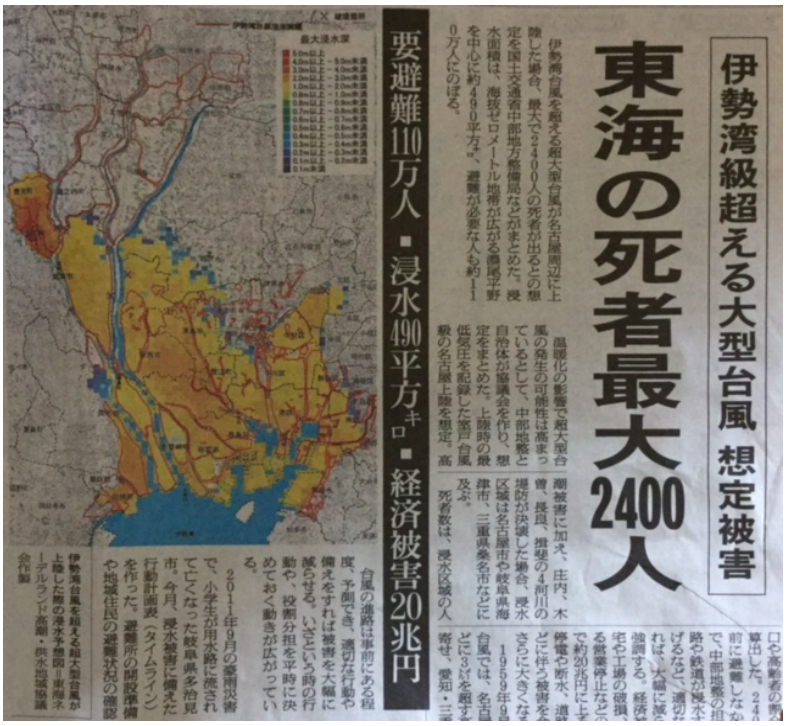
伊勢湾級超える大型台風 想定被害

写真は朝日新聞 3 月 26 日朝刊社会面から。先に「南海トラフ地震」をレポートしたが、そこでも海抜ゼロメートル地帯特有の地震災害が強調されていた。大型台風の想定被害に注目した。



伊勢湾級超える大型台風 想定被害

東海の死者最大2400人

伊勢湾台風を超える超大型台風が名古屋周辺に上陸した場合、最大で2400人の死者が出るとの想定を国土交通省中部地方整備局などがまとめた。浸水面積は、海抜ゼロメートル地帯が広がる濃尾平野を中心に約490平方キロ、避難が必要な人も約110万人にのぼる。

温暖化の影響で超大型台風の発生の可能性は高まっているとして、中部地整と自治体

要避難110万人・浸水490平方キロ・経済被害20兆円

伊勢湾台風を超える超大型台風が名古屋周辺に上陸した場合、最大で 2400 人の死者が出るとの想定を国土交通省中部地方整備局などがまとめた。浸水面積は、海抜ゼロメートル地帯が広がる濃尾平野を中心に約 490 平方キロ、避難が必要な人も約 110 万人にのぼる。

温暖化の影響で超大型台風の発生の可能性は高まっているとして、中部地整と自治体が協議会を作り、想定をまとめた。上陸時の最低気圧を記録した室戸台風級の名古屋上陸を想定。高潮被害に加え、庄内、木曽、長良、揖斐の 4 河川の堤防が決壊した場合、浸水区域は名古屋市や岐阜県海津市、三重県桑名市などに及ぶ。死者数は、浸水区域の人口や高齢者の割合をもとに算出した。2400 人は事前に避難しなかった場合で、中部地整の担当者は「道路や鉄道が浸水する前に逃げるなど、適切な行動を取れば、大幅に減らせる」と強調する。経済被害は、住宅や工場の破損、浸水による営業停止などの被害だけで約 20 兆円に上るとした。停電や断水、道路の不通などに伴う被害を含めると、さらに大きくなるとみる。1959 年 9 月の伊勢湾台風では、名古屋市南部などに 3 メートルを超す高潮が押し寄せ、愛知・三重両県を中心に 5098 人が犠牲になった。

浸水予想図をみると、あらためて「伊勢湾台風浸水実績」の広さに驚く。それと名古屋市の西南部をはじめ、黄色で表示された「最大浸水深」1 メートル以上の地域も広範囲におよぶ。4 河川の堤防決壊を想定しているが、天白川など他の河川は大丈夫なのだろうか、と疑問に感じた。

（2016年4月4日）